

第6回南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞受賞者について

【中学生部門】

賞名	推薦種別	所属校氏名	学年	受賞理由	
				研究テーマ等	研究発表・コンテスト等での成績
最優秀賞	個人	鯖江市東陽中学校 酒井 智永	1	「続クロサツブミズムシの研究」 姉の研究を引き継ぎ、クロサツブミズムシの研究を始めた。生息場所の観察に加え、自作の飼育容器で飼育を行い、卵の形・色・大きさ・産卵時期、幼虫の形態等、卵から成虫までの生活史を明らかにした。年間を通した継続的な研究であり、大変貴重な研究である。	第58回日本学生科学賞福井県審査知事賞(H26) 第58回日本学生科学賞中央審査優秀賞(H26)
優秀賞	個人	福井大学教育地域科学部 附属中学校 西澤 隼生	2	「絶滅に瀕する野鳥の生態を探る コシアカツバメ part.2」 継続研究の2年目であり、研究内容を深めている。絶滅に瀕する種コシアカツバメをイワツバメとの棲み分け調査などを通して生息状況を探り、減少の理由を考察した。数だけの記録でなく、巣のあった位置や壁面の材質、天井の形状など、工夫してまとめている。福井県全域を調査している点は特筆すべきことである。	第58回日本学生科学賞福井県審査県教育委員会賞(H26) 第58回日本学生科学賞中央審査入選3等(H26)
優秀賞	個人	坂井市立三国中学校 木部 由布佳	3	「どろどろ ～三国の丘のふもとに暮らして～」 近所の神社の木が伐採され急な斜面が露出したことから、崖崩れの危険を感じ研究のテーマとした。近所の4種類の砂の保水量と粒の大きさなどを比較し崩れる角度を自作実験装置を使って研究した。また、木の根に見立てた糸を混ぜ、糸の量との関係を検証した。発想が豊かで独創的な取組が見られる研究である。	2014福井県小・中学生科学アカデミー賞最優秀賞(H26)

【高校生部門】

賞名	推薦種別	所属校氏名	学年	受賞理由	
				研究テーマ等	研究発表・コンテスト等での成績
最優秀賞	個人	福井県立科学技術高等学校 浅川 英慶	3	「共振変圧器による無線電力送電」 テスラコイルの放電の画像を見つけたことから興味をもち、研究を始めた。入手した回路図を理解し、更に改良を加えて安定した出力を得られる回路を完成させた。簡易電力計を自作して無線送電効率の測定を行うなど、研究全般にわたって自分で計画・作製・測定・まとめを行っている。大学でも、装置の小型化など研究を継続していく意欲が強い。	第58回日本学生科学賞福井県審査最優秀賞(H26)
優秀賞	グループ	福井県立丸岡高等学校 野坂 良輔 山本 雅也 玉川 晴子	2	「夕日の研究」 夕日を撮影したときに、丸岡城天守閣と太陽が重なった偶然から、太陽の見かけの大きさや色に興味をもち研究を始めた。日没をとらえるチャンスが少ない中粘り強く観察し、次々と浮かび上がる疑問に対して物理的に検証し、動画編集および図形編集ソフトウェアを用いて、観測者の感覚に頼らず定量的にまとめられている。得られた知見を生徒に公表し、広報活動にも力を注いでいる。	第58回日本学生科学賞福井県審査優秀賞(H26) 第58回日本学生科学賞中央審査入選3等(H26)
優秀賞	グループ	福井県立鯖江高等学校 伊藤 康烈 前田 卓介 栗林 和輝 北野 ひかる 加藤 麻衣 前田 記里 小林 凌雅	2	「スカシカシパンの潜行行動の解析」 スカシカシパンが砂に潜る「潜行行動」を、すかし孔と辺縁部がかきあげる「砂量」を比較することで、定量的に分析・考察を行っている。「砂量」を精密に測定するために自作のサイフォン装置を考案し、観察データを蓄積し、詳細に考察している。独創的な手法で新しい事実を発見したことは、日本動物学会中部支部研究発表会でも高い評価を得ている。	第58回日本学生科学賞福井県審査優秀賞(H26) 第58回日本学生科学賞中央審査入選3等(H26) 日本動物学会中部支部大会 大会委員長賞(H26)